

平成 23 年 12 月 28 日

## 被災地の書店が続々再開

東日本大震災の被災地で相次いで書店がオープンしました。岩手県大槌町では、書店業未経験のご夫妻が 12 月 22 日に「一頁堂（いちページどう）書店」を開店。また宮城県気仙沼市では、12 月 24 日にこれまで移動書店や青空書店として営業していた「宮脇書店気仙沼店」が新たな場所に店舗を構え、「宮脇書店気仙沼本郷店」として営業を再開しました。

### “町から書店を無くしてはならない”と開業を決意—大槌町・一頁堂書店

東日本大震災で全壊した大槌町小鍬のショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」が 12 月 22 日に営業を再開。そのテナントの 1 軒として大槌町唯一の書店「一頁堂（いちページどう）書店」がオープンしました。

経営するのは、同町の木村薫さん、里美さん夫妻。書店業の経験はなく、自らも被災した状況にありながら、町から書店を無くしてはならないとの思いから、薫さんは勤務していた会社を退職し、奥さんと共に書店業を始めることを決意。その熱意に応え弊社も東北支店を中心にバックアップし開店の準備を進めました。実務については同業書店で研修を積み、「被災して傷ついた町の子どもの心が、本を読むことで少しでも癒されれば」と、書店人としての第一歩を踏み出しました。

そうして迎えた 22 日の開店日。子どもからお年寄りまで店内は多くのお客様で賑わい、連休中はアンパンマンの握手会や絵本作家・サトシンさんの読み聞かせなどのイベントも開催されました。「特に子どもたちに向けて、夢のある児童書をたくさん紹介したい」との希望から、店内は児童書や中高生の学習参考書に力をいれた商品構成。クリスマスのプレゼント用に絵本を買われるお客様も多く、また「ONE PIECE」全巻など、コミックのまとめ買いも目立ちました。この他、辞書や収納関連書・ハウジング関係の実用書も好調。



#### ●一頁堂書店

【開店日】 平成 23 年 12 月 22 日(木)

【住所】 岩手県上閉伊郡大槌町小鍬 27-3-4 シーサイドタウンマスト 1F

【坪数】 60 坪 (BOOK のみ)

【社長】 木村 里美 (きむらさとみ)

【店長】 木村 薫 (きむらかおる)

【営業時間】 9 : 00 ~ 19 : 00

※店名ロゴは、上條恒彦氏（歌手、俳優）デザインによるもの。

## 青空書店を経て営業再開—気仙沼市・宮脇書店気仙沼本郷店

東日本大震災による大津波で被災し、休業を余儀なくされた宮脇書店気仙沼店。書店の再開はもう出来ないと小野寺徳行店長を除き 13 名の職員は退職。しかし気仙沼から書店がなくなり、常連だったお客様や、町の人々からは再開を待ち望む声が寄せられていました。そのような状況下にあった同店に、弊社が被災地の復興支援のためトラックを使った移動販売の計画を打診。5 月 16 日に初日を迎え、多くのお客様が殺到しました。「自分の好きな本を読みたい」「自分で本を選びたい」という人々の本への希求の強さを目の当たりにした絃子社長と親会社の千田満穂社長ご夫妻は、「気仙沼には絶対に書店が必要だ、また書店をやらなければ」と強く決意。

大震災から約 3 ヶ月半後の 7 月 1 日には「気仙沼三菱自動車販売」駐車場で仮設テントでの「青空書店」をスタートさせ、営業を続けてきました。このほど、青空書店隣接地に新たに建設した店舗が完成、被災した店舗の 13 年前の開店日に合わせて 12 月 24 日（土）

に「宮脇書店気仙沼本郷店」としてオープンしました。

開店と同時にお客様が殺到し、駐車場も満車状態。2 台のレジは閉店まで行列が途切れることなく続き、アンパンマンの着ぐるみも登場して終日賑わいました。店内では「営業再開を待っていた」との声が飛び交い、千田社長ご夫妻と抱き合っ店舗再開を喜び合う姿も見られました。



### ●宮脇書店気仙沼本郷店

- 【開店日】 平成 23 年 12 月 24 日（土）
- 【住所】 宮城県気仙沼市本郷 7-8
- 【坪数】 95 坪（BOOK94 坪、文具 1 坪）
- 【社長】 千田 絃子（ちだこうこ）
- 【店長】 小野寺 徳行（おのでらのりゆき）
- 【営業時間】 10：00～20：00

※気仙沼三菱自動車販売株式会社（千田満穂社長）が関連会社として（有）千田商事（千田絃子社長）を運営。千田商事が宮脇書店 F C として出店。



「新刊ニュース」11月号で元気の出る本を紹介  
～特別企画「人気の著者が選ぶこの3冊！ 本の力に元気をもらおう！」～

読者向け書誌情報誌「新刊ニュース」11月号（10月15日発売）では、「日本の力を信じてる！！」プロジェクトの一環として、「人気の著者が選ぶこの3冊！ 本の力に元気をもらおう！」と題したアンケート特集を掲載しています。

アンケートにご協力いただいたのは、作家や文化人、評論家など幅広いジャンルで活躍する著者の方々83名です。

東日本大震災後、あらためて見直された“本の力”がひとりでも多くの読者に届くことを願い、読書週間恒例のアンケート特集を特別編として企画しました。「本の力に元気をもらおう！」をテーマに寄せられたのは、元気の出る小説の他に、震災後の日本のあり方を書いたノンフィクション、戦国武将やスポーツ選手に学ぶ精神論、気晴らしに読めるエッセイ、コミックス等、多種多様。実に様々な視点から「元気になる本」を推薦していただきました。

また、出版社のおすすめ本もあわせて掲載しており、長く手元に置いて選書の参考にさせていただきたい保存版です。

登場著者（一部）：あさのあつこ、上橋菜穂子、江國香織、恩田陸、風野真知雄、北方謙三、北上次郎、北村薫、齋藤孝、佐藤賢一、高嶋哲夫、田中芳樹、西村賢太、畠中恵、葉室麟、百田尚樹、森村誠一、諸田玲子、米澤穂信、和田秀樹、他多数

「新刊ニュース」は、毎月15日発売。頒価 160円（本体152円）。書店で入手できます。





平成 23 年 6 月 24 日

## 書店新風会「被災地の子どもたちに本を贈ろう」活動に協力 ～本の力による復興支援を目指して～

株式会社トーハンは、書店新風会が実施する「被災地の子どもたちに本を贈ろう」キャンペーンの趣旨に賛同して、主に本の仕分け作業や配送を担当するなど全面的に協力。このほど、読者から寄せられた絵本や児童書約 10 万冊の発送を完了しました。

「書店新風会」は全国各地の有力書店によるネットワークで、東日本大震災発生後、被災書店への見舞金や被災地への義援金寄贈などで復興を支援しています。「被災地の子どもたちに本を贈ろう」キャンペーンは、会員書店店頭で読者に本の提供を呼び掛け義援本として被災地に贈るもので、4 月 30 日までに約 10 万冊の本が集められました。

当社は、本の力による復興支援を目指した「日本の力を信じてる！！」プロジェクトを推進しており、“被災地の子どもたちに読書の時間をプレゼントしたい”という新風会のキャンペーン趣旨に賛同して、今回の活動に協力しています。

4 月 30 日までの 1 ヶ月間に店頭で集められた本はトーハンの各支店を経由して東京都新宿区の本社に集約し、開梱、仕分けの後、絵本・児童書・文庫・コミックに分類して寄贈用に梱包。一連の作業は会員書店とトーハン社員で行い、荷造りした本は、5 月末に仙台の倉庫に配送。被災地の会員書店も現地の対応などに尽力しました。この間、会員書店の代表が順次被災地の避難所や小学校



を巡り、直接子どもたちの元に本を届けています。寄贈先では、書店や本を提供した読者、協力した関係者の思いと共に届けられた本を手にした子どもたちの笑顔も見られました。

(写真＝宮城県石巻市向陽地区第 2 放課後児童クラブへ本を届ける豊橋市・豊川堂 高須社長、前橋市・煥乎堂 小林社長)

トーハンは、困難な時にこそ心の糧となりうる本の力による復興支援を目指す出版界共通の思いを具現化すべく、引き続き取引先や関係各社と共に活動を続けてまいります。



平成 23 年 4 月 6 日

## 復興支援「日本の力を信じてる！！」プロジェクトをスタート

トーハンは、震災からの復興支援を目指した「日**本の力**を信じてる！！」プロジェクトをスタートしました。期間は 2012 年 3 月までの 1 年間で、被災地への図書寄贈やチャリティ企画など、本を通じた復興支援を行います。

まず、出版社、地域書店と協力し、最新のベストセラーや絵本、被災地の様々な場面で役立つ実用書や教養書など、今必要とされている、求められている本を責任をもって選書し、単なる図書の寄贈ではなく“本の力”で被災地を励ますメッセージを込めた図書寄贈を 4 月上旬より実施します。

また、読書情報誌「新刊ニュース」では現在「元気が出る本」を募集中で、誌面での掲載やフェアの開催などを企画中です。この他、売上の一部が義援金として寄付されるチャリティーブックの促進や防災関連書の提案等を予定しており、詳細は順次発表します。今後は、出版社にも広く協力を仰ぎ、“本の力”が復興の礎となるよう出版界を挙げて取り組んでまいります。

なお、既に被災地の支援としてオンライン書店「e-hon」(<http://www.e-hon.ne.jp>)では赤い羽根共同募金の義援金受付に協力、医療従事者向けの電子書籍サイト「Medical e-hon」(<http://www.me-hon.ne.jp>)では 4 月末まで災害医療関連コンテンツの無料配信を行っています。

甚大な被害をもたらした東日本大震災によって、日本中が深い悲しみと不安に包まれました。一冊の本が人々の心を癒し、励まし、救いとなることがあるように、本には書き手の思い、それを多くの読者に伝えたいと願う人々の思いが込められています。また、先人の知恵や経験、先達の知識が記された本は、困難な状況に立ち向かうための勇気を受け、復興に向けた様々な場面で役立つものと信じています。私たちトーハンは、出版社と書店、その先にいる読者をつなぐ出版流通を担う立場から、本に込められた思いを読者に届け、心の糧としての“本の力”で復興を支援することを目指します。

「日**本の力**を信じてる！！」プロジェクトの推進で、この難局を乗り切るための様々なメッセージを本に乗せて皆さまにお届けします。